

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	個別児童デイサービス ドリームプラス		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【個別担当制】 スタッフ一人に対して子どもが一人ないし、二人を担当することで、線の質の向上を目指し、より細やかな支援ができるよう取り組んでいる。	子どもたち一人一人の特性や発達状況に合わせたプログラムを立案、実施している。 「遊び」「活動」「学習」など様々な場面で担当指導員が分かりやすく細やかに支援している。	メインルームと学習室を有効活用して、子どもたち一人一人の活動がより充実したものになるようにする。 その中で子どもたちが安心して過ごせる空間環境整備をおこなうようにする。
2	『KKS』～K(こころ)とK(からだ)をS(育てる) 平日の活動の中で、「運動」「創作」「SST」「習字」「学習読書会」を日替わりで取り入れている。様々な活動を通じ、子どもたちの『できた!』という成功体験を積み重ね、取り組む力を育てるために実施している。	活動が同じものにならないように、担当スタッフを定期的に変更し、スタッフのスキル向上をおこなっている。また季節ごとのイベントと連携して取り組むことで、子どもたちにも「自分ごと」として活動をおこなってもらっている。	一人一人の特性や発達状況に応じて、同じ活動でもいくつかのパターンを想定し、スモールステップで取り組めるような仕組みづくりを構築していく。
3	「お出かけ」や「クッキング」を通じて社会性やコミュニケーションスキルを身につけることができる。	お出かけ先で、友だちと楽しみながらルールやマナーが身につくよう「集団療育」も大切にしている。またクッキングでは、生涯健康的に生活ができるように調理方法や知識を身につけ、食べる喜びを感じてもらっています。	初めてのお出かけ先なども積極的に取り入れ、新しい環境でルールやマナーが身につくようにし、新しいお出かけ先での遊びや体験の幅が広がるように子どもたちがワクワクするようなプログラムを充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	慢性的なスタッフの不足 スタッフの資質向上	子どもたち一人一人の特性や発達状況にもよるが、担当する子どもに偏りが見られることがある。	子どもとの関係構築ができるように、日々の担当制を見直し、スタッフ全員がすべての子どもと関われるようにする。
2	活動を担当するスタッフの負担増	「運動」「創作」「SST」「習字」「学習読書会」を日替わりで実施しているので、その準備対応でスタッフに負担がかかっている。	非常勤の先生は出勤日数に差があるため、準備時間が不足する時があるので常勤スタッフが進捗を確認しながら、サポートに入れるようにしていく。
3	施設内の環境整備の改善 (床や机など)	開設してから来年で10年となるため、施設内の備品などが古くなってきている。	会社本部と相談しながら、子どもたちの支援に支障が出ないようにリニューアルできることから実施していく。